

陸前高田の未来をつくる対話

第一回開催レポート

【開催日：2011年12月18日(日)】



赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業

陸前高田創生ふるさと会議

ミラツク 大木浩士

開催概要

■プロジェクト名:「陸前高田・未来をつくる対話プロジェクト(仮)」

■開催目的:

- ①「陸前高田にいらっしゃる方々」と「各地で活動されているコミュニティリーダーの方々」が対話を行い、課題や実現したい事柄を共有し、それらを解決・実現するリソースや情報を知るきっかけの場とすること。
- ②陸前高田にいらっしゃる方々に「対話の場」を体験していただき、「自由に話し合える場作りのノウハウ」を知り、学んでいただくこと。(自ら場作りが行えるようになること)
- ③参加者同士のネットワーキング。

■主催:NPO法人・陸前高田創生ふるさと会議

■協力:NPO法人・ミラツク

※「陸前高田創生ふるさと会議」と「ミラツク」の団体概要は、後ろのページをご参照ください。

■開催日時:2011年12月18日(日)13:00～17:20

※今後1ヶ月に1回の頻度で、継続的に開催の予定（開催日は日曜日を予定）

■開催場所:竹駒地区コミュニティセンター

※住所:岩手県陸前高田市竹駒町字館44

■参加者:22名

※陸前高田から9名、他の地域から13名が参加。



※この事業は、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」の助成を受け実施しています。

会場

■竹駒地区コミュニティセンター

・住所：岩手県陸前高田市竹駒町字館44

※予約TEL：080-6035-9345 新沼(にいぬま)様
(または・社会福祉協議会・熊谷様:0192-54-5151)



第一回参加者

■陸前高田からの参加者

	氏名		所属	備考
1	福田利喜さん	ふくだとしき	11/12 参加 陸前高田創生ふるさと会議・副理事長	主催者
2	田村満さん	たむらみつる	11/12 参加 なつかしい未来創造株式会社・代表	
3	浦谷収さん	うらやしゅう	亜細亜大学／高田のこと語っぺ会	
4	村上龍臣さん	むらかみたつみ	専修大学／高田のこと語っぺ会	
5	福田紀雄さん	ふくだとしお	うごく七夕まつり実行委員会・事務局長	
6	熊谷将之さん	くまがいまさゆき	うごく七夕まつり実行委員会・総括・企画部長	
7	岡本翔馬さん	おかもとしょうま	SAVE TAKATA	
8	熊谷与志昭さん	くまがいよしあき	株式会社マイヤ	大船渡より参加
9	福田陽介さん	ふくだようすけ	水産関連団体職員	

■陸前高田以外の参加者

	氏名		ミラツク	所属	備考
1	大木浩士	おおきひろし	11/12 参加 ミラツク	博報堂	コーディネーター
2	西村勇也さん	にしむらゆうや	11/12 参加 ミラツク・代表理事	ダイアログBar・代表	ファシリテーター
3	兼松佳宏さん	かねまつよしひろ	ミラツク	greenz.jp・編集長	
4	平見真紀さん	ひらみまき		プロジェクト「サンタのよめ」	
5	西園寺由佳さん	さいおんじゆか	ミラツク	五井平和財団	
6	大屋敷武瑠さん	おおやしきたける		早稲田大学	
7	空閑厚樹さん	くがあつき		立教大学 コミュニティ福祉学部・准教	
8	角田知行さん	つのだともゆき		生涯学習開発財団 認定コーチ	
9	大矢中子さん	おおやなかこ		被災地をメディアでつなぐプロジェクト 笑顔311・代表	ビデオ機材持参・ 当日録画
10	岩井秀樹さん	いわいひでき	11/12 参加 ミラツク・理事	東京海上日動システムズ・部長	
11	永野辰馬さん	ながのたつま	ミラツク	Dialog For プロジェクト	
12	井上英之さん	いのうえひでゆき	ミラツク・アドバイザー	慶応義塾大学大学院 政策メディア研 究科・特別招聘准教授	
13	角めぐみさん	すみめぐみ		NPO法人ハナラボ(申請中)代表理事	

セッション1： 自己紹介

最初に参加者全員が車座になり、自己紹介を行いました。

一人ひとり、「①お名前、②どこから来たのか、③いつもやっていること」を紙に書き、お話をいただきました。



セッション2: 4人1組で対話①

参加者が4人1組になり、「どのような思いで、この場に参加したのか」について対話を行いました。



■あるグループでお話された内容の一部

「若い世代もまちづくりに参加しないといけないのではないかと考えています。面白い場になるのではないかと、という期待もあり参加しました」

「主催者から声をかけられて参加しました。若い人達だけが集まることを、あまりこころよく思わない方もいらっしゃるかも知れません。まちづくりについて話し合うのであれば、いろんな方々に声をかけてもよいかも知れません」

「陸前高田の若い人達は、なかなかこういう場に参加しません。自分のことで精一杯で、それどころではない状況だと思います。ただ『自分のことだけではなく、高田のこともやんなきゃいけない』との思もあり、この場に参加しました」

「陸前高田出身の若い人達と話しをする機会があります。みんな陸前高田のことが好きです。でも仕事がなく、陸前高田に戻りたくても戻れないというのが本音です」

「高田の若者も、みんないろいろ考えていると思います。でも自分の意見を口に出すことにあまり慣れていません。自分から発信することに臆病になったり慎重になるところもあります」

「やりたい仕事がある。住みたい町になる。今の子供たちが住みたいと思う町になることが大切だと思います」

「このような場を通して、地元の方が場作りのノウハウやネットワークを吸収できると良いと思います」



セッション2: 4人1組で対話②

メンバーを入れ替え、再度4人組になり、同じテーマ「どのような思いで、この場に参加したのか」について対話を行いました。



■あるグループでお話された内容の一部

「この場に来るかどうか、実は悩んでいました。難しいことを言わないといけないんじゃないかと思ったからです」

「『次世代リーダーダイアログ』というタイトルがカタいと思います。自分は次世代リーダーなんだろうかと考え、みんな引いてしまいます」※開催時は、「陸前高田・次世代リーダーダイアログ」というタイトルをつけていました。

「地元の人達から見た陸前高田と、地元以外の人達から見た陸前高田は、やはり違うと思います。認識の違いから生じる摩擦をどのように解決していくのかも大切なことだと思っています」

「私は『うごく七夕まつり』の実行委員をしています。七夕は若い人から年配の方まで関わることができる取り組みです。祭りは人とのつながりをつくります。行政主体ではなく市民主体になったことで、人とのつながりが広く深くなりました」

「海外に情報を発信したいです。自己紹介で海外にネットワークを持っている方がいらっしゃることを知りました。その方に情報発信のお手伝いをお願いできないかと思いました」

「20代の陸前高田出身者の反応が鈍いです。『俺らがやっても変わらないでしょ』という空気があります。何とかこの空気を変えたいと思っています」

「自分たちで話し合う場を企画して人を呼ぼうと思っても、『難しいことを言わないとダメなんですよ』とわれてしまい、人が集まりません」

「人を集める際、正統なやり方だと集まらないです。メディアをからめることが大切です。イベントやアーティストなど、若い人達が関心をもつ媒体を使って情報を発信していくことが大切だと思います」



セッション3： 対話を通して感じたことの共有

再度車座になり、対話を通して感じたこと・印象に残ったことなどについて共有を行いました。



■ 共有されたお話の一部

「陸前高田に来たこと、この場にいること。そのリアルな感覚が大切だと思いました。このリアルが感覚があるからこそ、多くの気づきがあると思います」

「マスメディアからの情報を見ていると、被災地という場所は切り取られた空間のように感じられます。そして東京と被災地との間に、つながりが感じられませんでした。でもこの場に来て、陸前高田の皆さんと出会い、人と人はつながれるんだなとあらためて思いました」

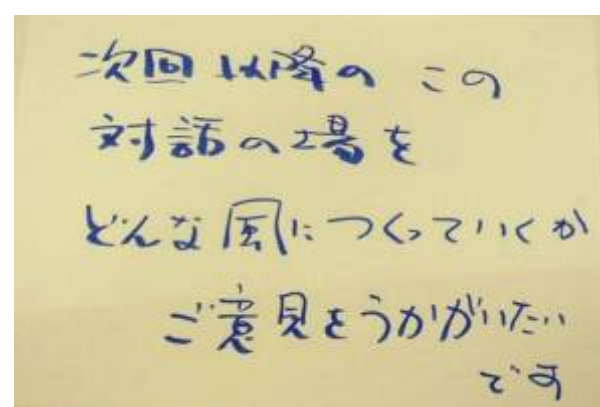
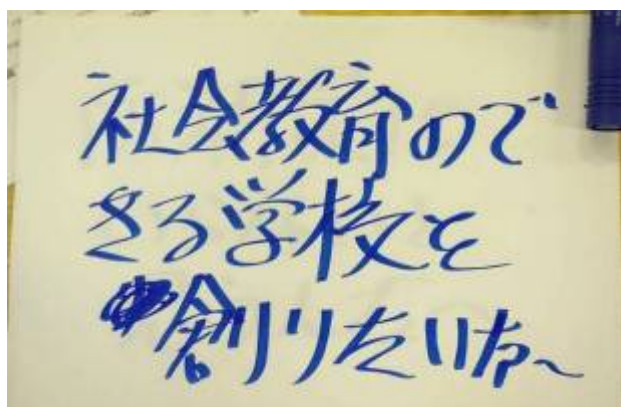
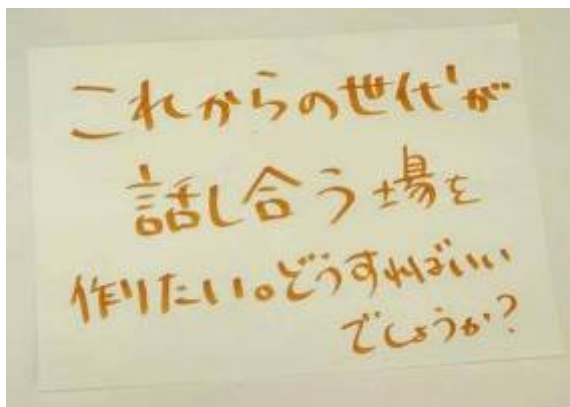
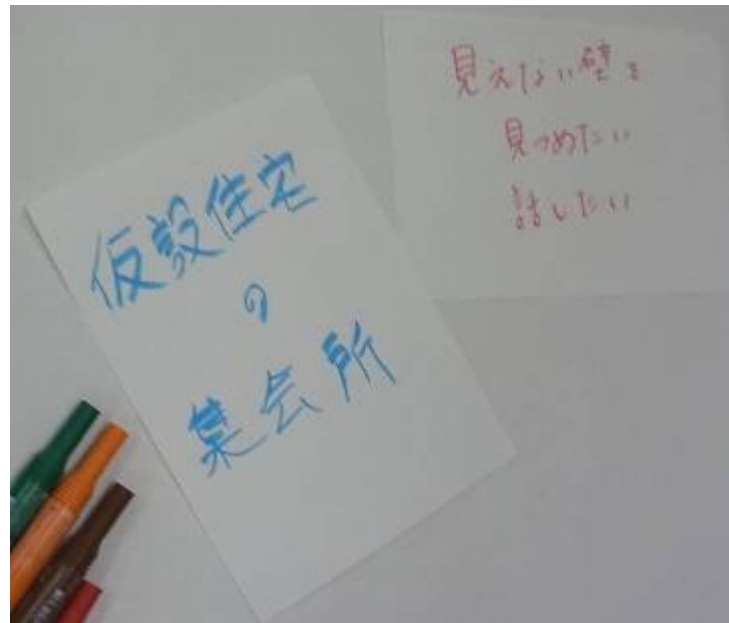
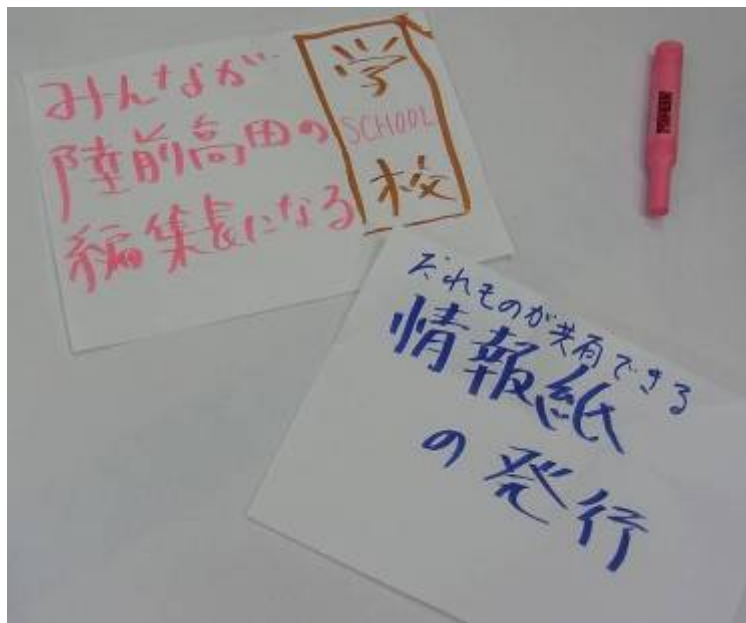
「この対話の場を企画しましたが、『次世代リーダーダイアログ』という難しいタイトルをつけてしまいました。参加していただいた方から『来にくかった』とのご意見をいただきました。すみませんでした。もっと堅苦しさを感ぜないタイトルに変えたいと思います」

「対話の中で、地元の人が考える地元の魅力と、地元以外の方が考えるその土地の魅力は違うのだということを知りました。とても印象的でした」

「被災地に対して『かわいそうだよな』と思う人がいます。それは上から目線じゃないかなと思います。外の人と被災地の人の違いは、短時間じゃ変わらないと思います。よくニュースで被災地のことが取り上げられますが、外の人からの目線で報じられると間違ったことが発信される可能性があります」

セッション4: 参加者自身がテーマを出し、対話を実施

参加者が、「自分が話してみたいテーマ」を出し、そのテーマに関心のある方々が集まり、対話を行いました。



セッション4: 参加者自身がテーマを出し、対話を実施



『社会教育のできる学校を創りたいな～』

社会教育ので
きる学校を
創りたいな～

ちが 立教大学から始める
3/2 学部のツアー
市田の里

今問題になっていることは
全て社会教育につながる

単位認定の
システム

借地 借家
賃金 賃金
賃金 賃金

規制

特区
学校法
企業で活動したい
東京都で来たもの

江戸の
和食文化
文化

D
M
V

『次回以降のこの対話の場を、どんな風につくっていくか ご意見をうかがいたいです』

22日
16-10の4
21

声付 - 200
七人の侍の話を面白く
輪と7人2人

青年会議所の
会

アイディアを共有する仕組み
アイディアをもつ2人
アイディアの共有は
12人

課題の共有
解決策を共有
意識的
面談
↓
情報共有の場
共有

土地
地域の声と
土地のつながり

交流の場を
今後どう発展させるか?

地域の声
自分
何ができる

自分と周りのつながり
土地の人間関係
バカ者カッ
全部
今後の交流の場
土地のつながり
高田の交流
場づくり
よりに
17名
7人1人1人
共有
共有

地域の声
～ために

140 555
全体が主体
今年から
11月には地域の声
を

交流の場の発展
アイディア共有
交流
共有

ヨリ者
若者との対話の
場
通して
バカ者カッ

セッション5： 本日対話の場に参加した感想などを共有

最後にまた車座になり、本日の対話に参加した感想などを、全員で共有しました。



■共有された感想の一部

「私はこの場に、『かまえて』きました。でも参加していろいろな刺激とヒントをもらえました。これから『うごく七夕まつり』の動きが変わるかも知れません」

「この対話の場に、地元の人達をひっぱってこれるようにしたいです。話しやすい場を作るということは、簡単なようで実は難しいと思います。この場に参加して、体験するだけでも、たくさんの学びがあると思います。地元の方々がこのような場作りや進行役が担えるようになれば、と思います」

「このような場が継続していけるといいと思います。自分の中でも思いを継続していければと感じています。人と人が出会うすごさをいつも感じます」

「感動しました。すごく勉強になりました。陸前高田の若い世代にも、こんな場に来て欲しいと思います。次回はもっと人を集めてきたいと思います」

「自分の中にいろいろな思いがあって、ももんとしています。これから自分なりにがんばっていききたいと思います」

「たいへん勉強になりました。僕が考えている学校の構想を、立教大学で実現するかも知れません。若いとか年寄りとかではなく、問題意識を持っている人達が集まるのが大切だと思いました」

「陸前高田のことを、大学の学生たちに見てもらいたいと思いました。田村さんがそのようなことを考えていると知り、目が開かされました」

「いろんな可能性があると感じました。自分でできそうなことが、いくつか見つかりました。例えば、一緒にプロジェクトに取り組んでいる女子大生をつれてきたいと思いました」

セッション5: 本日対話の場に参加した感想などを共有



**ご参加いただきました皆さま、
ありがとうございました。**

「自分にとってプラスになるような話が、たくさんありました。陸前高田の方たちが、休みの日にどんな過ごされ方をしているのかが感じられたら、もっと深い対話につながるかも知れないと思いました」

「自分が陸前高田に住んでいたら、この場に来たでしょうか？そんなことを考えました。今回来た方は『私は知らないよ』ではなく、来た。せっかく足を向けたのであれば、成果を出していきたいと思います」

「こういう場に参加できたことは、自分にとって財産だと思います。運営など、『高田のこと語っぺ会』の参考になります。どんなことであれ、活動を作っていきたいと強い気持ちを持ちました」

「対話をするということは、めんどろだし難しいことだと思います。でも、人を信頼することで、一緒にいて会話を続けることで、少しずつ前に進むことができると思います」

「陸前高田の人達が来てくれたことが嬉しいです。もしかすると参加するのは自分たちだけではないかと思いました。正直いえば、かまえて来ました。でも実際に話をしてみると、とても楽しかったです。外から来ていただいた方々から、たくさんの刺激を受けました」

「石巻でコミュニティの支援をしています。自分がやっていることで手一杯で、ストレスを感じていました。この場に参加して、自分がいかに情報を発信していないか、よく分かりました。」

「話を聞くことができ嬉しかったです。自分たちでできることを、自分たちでやるのが大切だと思いました。どこまで支援を受けるのか、どこから自分たちで自立していけるのか、いろいろ考えさせられました」

「この場には、支援する側とされる側という違いがないように感じました。この場にいる人達全員が、同じテーマで一緒に考えていました。目の前にあることを一緒に考えさせていただけただんだなと思いました」

次回以降の開催日程

■開催日時:

第二回・・・2012年2月5日(日)13:00～17:00ごろ

第三回・・・2012年2月26日(日)13:00～17:00ごろ

第四回・・・2012年3月25日(日)13:00～17:00ごろ

※12:55までには会場に集合をお願いいたします。

※第五回目以降も開催していく予定です。

■開催場所:竹駒地区コミュニティセンター

※住所:岩手県陸前高田市竹駒町字館44

お忙しい中とは存じますが、ご参加のほど、よろしく願い申し上げます。

※ご参考:「陸前高田創生ふるさと会議」について

NPO法人陸前高田創生ふるさと会議 設立趣旨書

1 趣旨

平成23年3月11日午後2時46分に発生した宮城県沖を主震源とする大地震による大津波が東日本沿岸を襲来しました。特に、私たちが暮らす陸前高田市は市街地の大半をはじめ沿岸地域に未曾有の被害をもたらしました。

死者不明者合わせて2300人以上と人口の1割を一瞬にして失い、併せて、住宅や事務所、店舗など多くの財産、生活の糧である職場をも失いました。

さらに、本市の主産業である農業・漁業にも壊滅的な被害を及ぼしました。

また、電気、水道、通信といったライフラインも壊滅的な被害をこうむり、事業者の献身的な復旧作業が行われていますが、いまだに水道は復旧の目途さえ立ちません。

このような中、これまで陸前高田市で暮らしてきた私たちがこのまちの復興に寄与することが出来ないかと考え、陸前高田創生まちづくり会議を立ち上げることにいたしました。

この会は、**陸前高田市の将来像を多くの皆さんとともに考え積極的な情報発信を行い、本市を応援してくれる全国各地の皆さんと陸前高田をつなぐ役割を担うとともに、復旧・復興そして新たな陸前高田を作り出すために市民の目線で考え、種々の活動を行うこと**によって一日でも早い復興と継続的な陸前高田市のまちづくりを目指すものです。

これまで、この町で普通に暮らしてきましたが、この大震災で暮らしが崩壊しました。陸前高田で生まれ、そして暮らしている自分たちだからこそ、様々な経験と強い思いがあります。だからこそ、**お仕着せの復興ではなく自分たちが将来に向けて胸を張って残せるまちを作りたい、まちづくりに少しでも寄与したいと考え、一人ひとりが持つ力を結集し活動をする組織として設立するもの**です。

2 申請に至るまでの経過

3. 11東日本震災に被災した以後、様々な形で陸前高田市の今後を考える機会が多く、且つ、多くの研究者や実務家との交流する機会が多く、陸前高田の未来を市民の目線から多角的に検討することが必要と考え、設立に至ったところである。

また、現在、入浴支援活動を行っており、災害復興へ向けた様々な活動を行う母体としても法人としての活動が財政及び組織運営状適切と考え設立するものである。

平成23年5月11日

理事長:八木澤商店・河野和義会長
副理事長:福田利喜

※ご参考:「ミラツク」について

NPO法人ミラツク

ミラツクは、2011年にダイアログBar代表の西村勇也氏を中心に設立されたNPOです。
”共に未来を創る”をテーマに、海外のパートナーらと連携しながら国内を中心に対話の場やコミュニティ作り、ユースリーダーの育成を通じてCollective Innovationの実践に取り組んでいます。

ミラツクのビジョン

1. Collective Innovationの器

NPO法人ミラツクは、“未来を創る”をテーマに、Collective Innovationを社会に生み出す器として設立されました。

Collectiveであるためには人と人が真に協力する必要があります。

それは単純な共同プロジェクトやアイデアの結合ではなく、信頼に基づいた人としての協力です。社会に真の協力が生まれた時、70億という人の数は社会に課題を生み出す負担ではなく、社会の様々な課題を解決するためのエネルギーになるはずです。

2. 課題の解決から課題が生まれない社会づくりへ

世界には本当にたくさんの課題があります。

貧困、食料問題、金融危機、子どもの虐待、地方の衰退、家族の崩壊、エネルギー問題。

これらの社会課題は、この10年間を見ても、減るところか増々複雑で困難なものになっています。複雑な課題は増え続け、目に見えやすい課題は場所を移して続いている。それが現実の社会の状況ではないでしょうか。

ミラツクは、社会に課題が生まれる状況自体を変えていくことに取り組みます。

人と人が協力し、人と自然が協力することができれば、地球上にいる70億人は社会に課題を生み出す重荷ではなく社会をより良くしていくための源泉として創造的な力を発揮することが出来るはずです。

3. 共に未来を創る社会へ

ミラツクは、共に未来を創る社会を目指して、①協力と社会課題の解決を生み出す対話の場、②コミュニティを支えるユースリーダーの育成、③Collective Innovationセンターの設立の3つに取り組めます。

